

# 補助事業を活用したハウス団地の整備に取り組み、“所得増大”と“生産拡大”を促進します。



## ○ハウス団地の整備による生産拡大への挑戦

JA新潟みらいでは平成30年度より、県・市の補助事業を活用し、ハウス団地の整備に取り組んでいます。今回対象となったのは、すいか・メロン等が主要品目となっている赤塚地区で、団地の面積は51a、ハウス20棟を建設中です。今年の3月中旬から作付がはじまります。

赤塚地区は県内有数のすいか・メロン等の産地ですが、他地区同様、生産者の高齢化が進み、離農される農家も毎年ある状況です。また、すいか・メロンについては高度な栽培技術が求められるため新規導入が難しく、後継者の育成も課題でした。そこで、今回のハウス団地では、ハウス栽培の**新規導入者とベテラン生産者が共同作業**を行いながら同一品目を栽培することで、**新規生産者の早期の技術習得と品質・収量の安定化**を図ることが狙いです。大玉すいか・抑制メロン・小松菜を年間計画として作付予定ですが、生産者がお互いに対象品目の技術を教え合う場をつくることで、新規生産者が安心して栽培に取り組める体制づくりを行います。

また、複数の生産者が同一圃場で取り組むことにより、**共同作業による労働時間や雇用時間の軽減、共同購入による余剰資材費の削減**も見込まれます。販売面でも、大玉すいかは出荷が早い時期には県内産が少なく、地元産を重視する消費者への訴求効果が大きいため、ハウスの栽培を取り入れることで**所得の向上**が期待できます。このハウス団地全体では年



建設中のハウス団地

間2,000万円ほどの売上を目標としています。

なお、今回は耕作放棄地にハウスを整備することにより、**放棄地の解消**にも繋がりました。

今回をモデルケースとして、今後もハウス団地整備を進めることにより、栽培技術の継承や、後継者育成の課題の解決を図り、**地域農業の活性化**を目指しています。

自己改革の現場から



宮農企画課  
古俣 明広

宮農企画課では、ハウス団地の整備などにより、新規の若い後継者のサポートや、技術習得の機会を提供しています。今後もさらに行政と連携して、後継者不足解消や、農家所得の増大に繋がる取り組みを進めていきます。

## アンケートへのご協力をお願い

今年2月のアンケート調査に引き続き、今回の調査は、私たちJA新潟みらいの**自己改革に対する評価をより多くの組合員の方からお伺いする本番調査**と位置づけ、下記のとおり実施いたします。

今後より一層、組合員の皆さまの期待に応え、「JAはなくてはならない存在」に少しでも近づくための調査です。誠に恐れ入りますが、ご理解ならびにご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

1. 実施期間 平成31年1月～2月
2. 対象者 正組合員は全員（※）、准組合員は無作為抽出により全数の4割の方  
※今年2月の調査対象者や昨年実施したJAグループアンケートの対象者等一部の方は除きます。
3. 実施方法 ①JA職員が対象組合員の方のお宅に訪問し、アンケートの趣旨をご説明いたします。  
②アンケートはその場でご回答いただくか、後日記入済みの回答用紙を受け取りに参ります（マークシートでの回答となります）。